

2021年度



事務局

〒560-0043 豊中市待兼山町1-6
大阪大学大学院法学研究科内
TEL&FAX.06-6850-5198
E-mail ishibashi@seiunkai.net
https://www.seiunkai.net/

2021年4月27日

編集・発行

青雲会(大阪大学法学部同窓会)
会長 西尾 公一

青雲会 会報



青雲会ホームページ

印刷 株式会社 絆コーポレーション

2021年度

青雲会総会のご案内

講演会のテーマ

「ウィズコロナの時代をどう生きるか」

【講師】

公益財団法人日本生命済生会 理事長 **三木 章平氏**(30期)

公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院 名誉院長 **笠山 宗正氏**



公益財団法人日本生命済生会 理事長 **三木 章平氏**

【略歴】 昭和35年生まれ
昭和57年 大阪大学法学部卒業
日本生命保険相互会社 入社
平成21年 執行役員
平成24年 常務執行役員
平成27年 取締役専務執行役員
平成28年 三井(現大樹)生命保険株式会社 代表取締役副社長
平成30年 公益財団法人日本生命済生会 理事長

日時

2021年7月17日(土)

午前10:30開会

10:30 - 11:15 総会
11:20 - 12:20 講演
12:30 - 14:30 懇親会

※状況によっては延期の可能性もございます。延期の場合はホームページでお知らせいたします。

会費

一般 **9,000円**

周年記念:7,000円、卒業後5年以内:3,000円、
学生(未入会):2,000円、学生(入会済):1,000円

(注)◎周年記念 10年:59期、20年:49期、30年:39期、40年:29期、
50年:19期、60年:9期 の会員です。

◎卒業後5年以内:2017年3月~2021年3月卒業の会員です。

ご出席の方は、会費の**前納**をもって申込みとさせていただきます。

同封の払込み用紙をご利用ください。

または、青雲会ホームページ会員専用サイトで
クレジットカード払いもご利用いただけます。

■払込み期限 **6月25日(金)[必着]**

会場

大阪新阪急ホテル

紫の間(総会議事・講演会) 花の間(懇親会)

〒530-8310 大阪市北区芝田1-1-35

TEL 06-6372-6510

JR「大阪駅」、阪急・地下鉄「梅田駅」から徒歩すぐ。

TEL 06-6372-5101(ホテル代表)



公益財団法人日本生命済生会 名誉院長 医学博士 **笠山 宗正氏**

【略歴】 昭和29年生まれ
昭和55年 大阪大学医学部卒業
平成62年 アメリカ合衆国国立衛生研究所(NIH)
平成13年 大阪大学大学院医学系研究科 講師
平成16年 大阪大学大学院医学系研究科 助教授
平成17年 大阪大学医学部附属病院 病院教授
平成19年 日生病院 副院長 兼 総合内科部長
平成25年 日生病院(平成30年日本生命病院に改称)院長
令和3年 日本生命病院 名誉院長



■ 青雲会会長 ご挨拶

前会長片岡和行様から、青雲会会長を引き継ぎました25期の西尾公一です。

前会長から次期会長とお話があった時、私は歴代会長の方々にとっても及ばないと思っておりました。しかし、これまで長く貢献されてきた役員の方々が高齢で任期満了で大幅に入れ替わられることや、ウィズコロナの時代が続く今後の活動困難が予想されることもあり副会長として責任を感じました。私は、大学卒業後、三井住友銀行に就職し、関係会社も含めて40年余り勤めてまいりましたが、法学部入学以来、数多くの優れた方々に恵まれ支えられてきました。その一部でも恩返しすべきだと思いついに至りました。幹事会のご推挙をいただき、このたび会長職を引受けることに致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。



会長 西尾 公一 (25期)

片岡前会長のもとでは副会長として、財務・組織強化・青雲塾・青雲懸賞論文を担当させて頂きました。財務面では、システム更改等により会費・入会金の収入がようやく向上し、多くの方から運営賛助金のご寄付を頂いたおかげで、5年ぶりに単年収支の黒字化にこぎつきました。財務基盤の安定を背景として、青雲懸賞論文は、法律と政治経済に部門を分けて表彰数・賞金総額を倍増とした結果、今年は過去最高の約70名による応募があり、コロナ禍の在学生の研鑽の奨励支援にもなりました。ご協力をいただいた会員の皆様には心よりお礼申し上げます。

コロナ禍においては人と人とのつながりや出会いの大切さを痛感させられました。人間関係も、職場中心から地域や同窓など他のつながりに分散されてゆくとされています。

人生100年時代の豊かな人間関係の場としての同窓会・大学と在大学生を支援する同窓会を目指して、新役員方と協力して一歩一歩進んでゆきたいと思っておりますので、今後とも青雲会活動に皆様のより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■ 青雲会名誉会長 ご挨拶



大阪大学大学院法学研究科長
大阪大学法学部長

瀧口 剛 (31期)

同窓会の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より皆様には多くのご支援を賜り、深く感謝いたしております。この4月から法学研究科長・法学部長に就任することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。以下では法学研究科・法学部の近況を報告させていただきます。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受けた年でした。特に学務面では、対面から不慣れなオンライン、メディア授業中心に変わり、卒業式に際しては豊中キャンパスでの卒業証書授与や青雲会主催の卒業パーティーは中止せざるを得ませんでした。

他方でこのような状況下でも、認可されたばかりの法曹コースを法学部と高等司法研究科との協力の下で実施するなど、着実に諸事業を前進させることが出来ました。コロナ禍のため延期となっていた第2回「AIと法シンポジウム」もオンラインで好評のうちに実施することが出来ました。

また大阪大学では、2022年度からの第4期中期目標に向けて今後の改革方針を練っているところですが、人文社会科学系部局でも研究科長をメンバーとする「戦略会議」を中心に重点的な学際的研究課題をリストアップしつつあります。法学研究科では「AIと法」や「環境と法=政策」「スマートシティ」などのテーマを掲げて研究を推進してゆく予定です。

今年度は、ポストコロナの時代に向けてさらに前進しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■ 国際公共政策学科長 ご挨拶

2020年4月に大学院国際公共政策研究科長および法学部国際公共政策学科長に就任し、1年が過ぎました。引き続き、2021年度も1年間努めさせていただきます。青雲会の皆様には、いつもご支援をいただき、誠にありがとうございます。

国際公共政策学科は、2008年4月に開設され、2021年度の学生で、13期生となります。まだまだ若い学科ですが、法学科とともに、日本の社会に貢献できる人材の養成を目指して、頑張っております。特に、国際公共政策学科では、学生に対し、グローバルな視点から社会問題を捉え、その解決のための政策設計について、法学、政治学、経済学の各分野を融合する形で考える機会を与えるため、全教員が最新の国際動向を踏まえた教育を行っております。

国際公共政策学科には、グローバルな場で学びたいとの意欲が高い学生が多く、留学や海外での体験を目指して毎年多くの学生が海外に渡航します。しかしながら、本年は、コロナ禍で、学生は海外に全く渡航することができず、厳しい1年となりました。一方で、全世界にオンラインの利用が急速に進み、ネットを通じた海外インターンも実現できるようになるなど、新たな展開も見えてきています。コロナウイルスが落ち着き自由に海外に行けるようになるまでの間は、与えられた環境の中で、できる限りの教育を行っていききたいと思います。

今後も引き続き、激動する社会ニーズに合った教育を取り入れる努力を行ってまいりますので、青雲会の皆様からのご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



国際公共政策学科長
赤井 伸郎

■ 高等司法研究科長 ご挨拶



高等司法研究科長
水谷 規男 (32期)

研究科長に就任して2年が過ぎました。引き続きもう1年研究科長を務めます。よろしくお願い致します。

2020年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、法科大学院の授業にも大幅な制約があり、とくに夏前までは、全面的にオンライン授業になりました。これは教員にとっても、学生にとっても、初めての経験でしたが、テレビ会議システムや大学の授業支援ツール(CLE)を用いて工夫を重ねることによって、何とか予定通りのスケジュールで授業を終えることができました。今後は、オンラインと対面授業のそれぞれの強みを生かした教育(阪大ではこれをブレンデッド教育と呼びます)が求められます。引き続き教育面での工夫を重ねていきたいと思っております。また、2023年から始まる法科大学院在学中の司法試験受験に対応できるカリキュラムの見直しも進めているところです。

法科大学院の教育実績は、どうしても司法試験の結果で計られます。合格者数が減少した2020年度の結果については、諸先輩方からもご心配をいただいたところです。しかし、毎年の合格者数は、様々な要因で上下します。少し長いスパンで合格者数や合格率が上がったことを実感していただけるよう、教員一同、努力を重ねていきます。今後とも諸先輩方の激励、支援を賜りますようお願いいたします。

大阪大学法曹会

大阪大学法曹会は大阪大学を卒業して司法試験に合格した方と大学教員による、会員の資質向上と親睦を図り、高等司法研究科学生に対する支援団体です。

2020年度はコロナウイルス感染症蔓延のため司法試験も延期となり合格発表は翌年1月にずれ込みました。このため例年開催されている大阪大学法曹会主催の合格祝賀会も就活懇談会も中止にせざるを得ませんでした。

そのような状況下でも受験生の努力や法曹会会員弁護士の支援等によって高等司法研究科からは34名の合格者、また法学部を卒業され消息が分かっている方だけでも20余名の合格者を出しました。残念ながら合格者数、合格率とも昨年には及びませんでしたが、来年度の合格者数増を目指して努力しています。現在、法曹会では高等司法研究科後援基金を通じて下記の支援を行っています。

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| 1. 法律文書練成講座 | 弁護士アドバイザーによる法律文書の書き方指導 |
| 2. 修了生勉強会 | 未合格修了生に対する弁護士講師のグループ指導 |
| 3. 必要資金の援助 | 修了生に対する卒業記念品授与、成績優秀者表彰、中野賞授与 |
| 4. 合格者に対する就職活動懇談会 | 総会時の開催を中止したが、後日リモート開催を実施 |



■ 2020年度 総会報告

日 時 2020年11月28日(土) 10時30分開会
場 所 太閤園 ゴールデンホール
講 演 テーマ「陸(おか)に上がった日立造船」
講 師 日立造船(株)相談役 古川 実氏

2020年度の青雲会総会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初の7月18日の開催予定を延期し、形式を総会議事と講演会のみに変更して、11月28日に太閤園にて開催されました。当日は、ご来賓の吉本健一名誉教授をはじめ、中山竜一法学部長、赤井伸郎国際公共政策学科長、水谷規男高等司法研究科長ほか多数現職教員の先生がたのご臨席のもと、感染防止対策を万全にした上での参加者43名による開催となりました。

1 総会議事 (10:30-11:15)

はじめに片岡和行会長から挨拶があり、青雲会が取り組むべき課題として、組織の強化、新たな交流の場の創設と促進、在学生の人材育成支援の3点が挙げられました。また、2020年度新たに導入した運営賛助金制度により会員の皆様からたくさんのご協力をいただいたことへの謝辞が述べられました。来賓祝辞では、中山竜一名誉会長より法学部の現状をお話いただき、オンライン授業への素早い対応とその後の充実した取り組み、および大学全体の中期ビジョンの中で法学部が果たすべき重要な役割について説明がありました。引き続き片岡会長より2019年度会務会計報告がなされ、西尾事務局長から2019年度会計監査報告があり、いずれも承認を得ました。次に2020年度事業計画案および予算案が提出され、いずれも承認を得ました。続いて新幹事7名の紹介があり、最後に学内幹事の松本和彦先生から大学の現状についての報告があり、2020年に一般化したオンライン授業については今後もその良さを生かしつつ対面授業とうまく組み合わせることで授業を進めていきたいとの説明がありました。



太閤園



片岡会長決算報告(全景)



講演風景

2 講演 (11:20-12:20)



講師 古川 実氏

日立造船(株)相談役の古川実氏より、「陸(おか)に上がった日立造船」と題して講演をいただきました。日立造船は1881年(明治14年)、英国人実業家によって興された大阪鉄工所が前身。同社の歩みを創業から追いつつ、造船会社として不動の地位を確立するものの、戦後は、造船事業で培った様々な技術を応用できる「陸」の事業に大転換を図ったことを述べられました。社名にもある「造船」は他社へ事業移管。現在は環境プラント、精密機械、エネルギー機器、建設機械など多様な事業を構築して、「環境の日立造船」への飛躍を確かなものにされたことを詳しく説明されました。本業から撤退しての事業再構築には幾多の苦難・軋轢があったと思われますが、それを陣頭で指揮した古川氏は、同社の経験を踏まえた迫力をもって、環境の変化に挑戦し続けることが、これからの社会を生き抜くための必須条件であることを、熱く語っていただきました。最後に「人が一番大事」とのお人柄を反映した言葉が印象に残りました。

2020年度 法学部卒業式・卒業祝賀会は中止になりました

2020年度の大阪大学の卒業式・大学院学位記授与式については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底したうえで卒業生・修了生のみのお席のもと大阪城ホールにて行われました。

(法学部での卒業式は中止となり、そのあとに開催予定だった青雲会主催による卒業祝賀会も中止となりました。)

卒業生および修了生の皆さん、おめでとうございます。法学部生、法学研究科生の方は、卒業・修了と同時に青雲会の正会員となります。今後ともよろしく願いいたします。

青雲会の行事への積極的なご参加をお待ちしています。

青雲キャリア支援基金事業

学生支援室長 福井 康太

2020年度「青雲キャリアチャレンジ賞」

青雲キャリア支援基金活用事業として、2017年度から、「青雲キャリアチャレンジ賞」を設けています。「青雲キャリアチャレンジ賞」は、在学中に課外で取り組み、キャリア形成に向けて優れた成果を挙げた法学部生を表彰し、副賞を授与して、その成果を称えるとともに、在学中のキャリア形成活動を促進することを狙ったものです。2020年度には1名の学生（野元聡真さん）が受賞しました。青雲キャリアチャレンジ賞が、今後、優れたキャリア形成活動の励みになるものとして広く認知されるよう、努めて参ります。



片岡会長と受賞者の野元聡真さん(右)

青雲キャリア支援基金特別企画ビデオ品評会

2020年度は世界的に流行した新型コロナウイルスに振り回された1年でした。授業はオンラインで行われ、学生向け企画のほとんどすべてが中止ないし延期ということになりました。このような中、学生支援室はウィズコロナ、ポストコロナに引き寄せた特別企画として、ビデオ品評会「ウィズコロナ、ポストコロナ時代にむけて:大阪大学法学部生の提言」を企画しました。この企画には5名の学生が応募し、1名が「優秀賞」、2名が「入賞」を受賞することとなりました。評価は学生によるオンラインアンケートによって決められました。学生の新しい感覚で作品の評価を行うということは一つのチャレンジでしたが、興味深い結果になったと思います。この特別企画が常設の企画として残されるかどうかは今後の検討にゆだねられます。法学部生が興味をもてる新しい企画も随時増やしていきたいと思っています。



優秀賞のYU ZHEHAOさん



作品動画より(タイトル)



料理の手つきも鮮やかな動画の一コマ

コロナ禍と学生支援について

2020年度はコロナ禍のために、学生の日常生活は大きな影響を受けました。授業は対面では行われず、オンラインで実施されるということで、これになじめない多くの学生の学習意欲が損なわれました。また、サークル等の活動もほとんど行われず、多くの出会いの機会が失われました。これは大きな損失です。もっとも、コロナ禍の結果として、私たちは世界とオンラインでつながっていることを自覚することができました。就職活動も、ボランティア活動も、海外研修もオンラインでできることがたくさんあることを私たちは学び、新しい時代の可能性を知りました。コロナ禍は大変な負担でしたが、私たちはこれを乗り越えることで大きく変わろうとしています。学生支援に期待されることも変わってきていると思います。2021年度が新しい飛躍の時代であることを心から祈っています。



学生支援室長 福井康太



“青雲塾”でホッと一息

青雲塾担当 松井 繁幸 (23期)
西尾 公一 (25期)

昨年度の開催内容は次のとおりです。場所は大阪城と奈良を除いて大阪大学中之島センター。各回の詳細と過去の実績、次回の案内もホームページをご覧ください。 <https://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/>

第68回 ▶ 2020年10月31日(土)

「大阪城の再発見と中之島クルーズ」

講師ガイド 舟引 康之 氏(青雲会 25期 1977年卒業)

「大阪城では、徳川の築いた石垣や堀、櫓を実際に見て感じ、戦前の軍事施設の名残や、大戦中の激しかった爆撃を実感頂けたでしょうか。お城の周辺では、古墳・飛鳥・奈良時代の大阪を想像頂けたでしょうか。私は、普段は訪日外国人の案内をしておりますが、彼らを案内する度に新しい発見があります。今回そのような発見を、ご参加の皆さんと共有させて頂くことが出来たのなら、また幾分か観光客の気分になって、美しい大阪城やクルーズを楽しんで頂けたのなら、大変うれしく思います。」(舟引講師)



逆さの天守閣が水面に美しく映える日本庭園で(左から3人目 舟引講師)



乗船したアクアライナーから眺める景色

第69回 ▶ 2021年1月23日(土)

「コロナ・パンデミックとアメリカ政治」

講師 高橋 慶吉 氏(大阪大学大学院 法学研究科 准教授/青雲会 48期 2000年卒業)

「2019年8月から1年間、アメリカに在外研究に行っておりまして。滞在先はヴァージニア州アーリントン。そこでの生活が2020年3月、コロナ・パンデミックにより一変いたします。今回の青雲塾では、現地での経験談を織り交ぜながら、コロナ危機をめぐるアメリカ政治についてお話したいと思います。」(高橋講師)お話の後、ご参加の皆さんから活発な質問があり、開催後、先生からメッセージをいただきました。「今回のお話はいつか文書にしたいと考えております。皆さんからいただきましたコメントや質問はできる限り、その将来の文書に反映させたいと思います。」(高橋講師)



バイデン大統領の就任式直後
タイムリーな話題を提供(正面 高橋講師)

第70回 ▶ 2021年2月27日(土)

「遣唐使の記憶を巡る」 講師ガイド 沖田 拓司 氏(青雲会 30期 1982年卒業 奈良商工会議所認定「奈良まほろばソムリエ」)

短い時間でしたが、遣唐使の時代の複雑な政治状況、新羅や渤海も含めた外交関係、そして遣唐使に関わった人達の人生ドラマを少しはご紹介させて頂けたかと思えます。2月にしては天候や気温に恵まれたのが何よりでしたし、道中に先輩方の貴重なお話も伺えて有意義な一日となりました。」(沖田講師)

「天気も良く、楽しく歴史を学ぶことができました。何より驚いたのは、同級生の沖田さんの知識の豊富さでした。今後も青雲塾が盛り上がるよう努力したいと思います。」(30期 次年度青雲塾担当 山西雅人)



庭園遺跡を復元した東院庭園



復原遣唐使船の前に
(右から2番目 沖田講師)

第71回 ▶ 2021年3月27日(土)

「映画都市、大阪～東洋一の撮影所など～(大正、昭和初期)」

講師 武部 好伸 氏(エッセイスト・作家)

「大阪と映画——。あまり結びつきがないように思われますが、大阪は映画上映と興行の発祥地で、しかも大正中中期から昭和初期にかけて、〈映画都市〉として名を馳せていました。『東洋のハリウッド』と呼ばれた帝国キネマの長瀬撮影所や羽曳野の古市極東撮影所など大小さまざまな撮影所が点在し、東京、京都に並ぶ映画製作の拠点でした。こうした大阪の輝かしい映画遺産について、画像をふんだんに使ってわかりやすくお話ししたいと思っています。」(武部講師)



井戸田博史さん(8期)〈右〉の質問に
答える武部講師〈左〉

東京支部だより

東京支部長 西畑 一哉 (27期)



● 東京支部 連絡先

〒102-8336
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学
TEL 03-3261-1298
FAX 03-3261-1291

青雲会東京支部長の西畑一哉です。日銀勤務を経て2015年9月から九段にある二松学舎大学に籍を置いています。

コロナウイルス蔓延の影響は全世界に及び、勤務しております二松学舎大学においても昨年5月の連休明けから全面的にオンライン授業に転換し、10月からは人数を制限しながらオンラインと対面を組み合わせた「ハイブリッド型」の授業を実施しています。それにしても「インターネット」と「PC」が普及していなかったら、こうした対応は全くできなかった訳です。個人的な思い出ですが、最初にインターネットの原型技術である「パケット交換」を知った時は本当に驚きました。パケット交換は①データを一度発信元でバラバラにし受信元で再構築する②それまでの「線」で繋がる伝送手段と違い世界中に張り巡らされた「網」が少しでも繋がっていれば発信できるという画期的なものでした。1987年頃日銀と各取引先とを結ぶオンラインシステムにこの技術を応用しようとしたのですが、暗号化を含めた技術使用に関して米国商務省の許諾が中々下りませんでした。元来、戦場で如何なる条件下でも連絡が取れるようにと開発された技術であり、当時はまだ準軍事秘扱いだったのです。軍事技術としての威力はその後の第一次イラク戦争で明らかになります。

昨年は、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、東京支部の活動もほぼ巣ごもり状況となりました。こうした中で、昨年10月30日には、咲耶会東京支部のお力をお借りして、西畑が学士会館から「日銀がデジタル通貨を発行する日」との演題でZoomによる講演会を実施しました。様々な技術革新に沿って通貨が自然物の「貝」から「金属の金や銀」「金属製のコイン」となり、製紙・印刷技術の進展によって「紙幣」が誕生した経緯と、今後は暗号・インターネット技術を駆使した中央銀行デ

ジタル通貨が発行される方向というお話をさせていただきました(自身日銀時代にデジタル通貨関係の特許の申請に関わった経験がございます)。青雲会東京支部の方々にも視聴していただきましたが、Zoomの仕様上私共がメールアドレスを存じている方にしか配信することができませんでした。また11月の青雲会総会の資料と議論の様も、インターネット経由でご報告しましたが、同様の問題が生じました。今後コロナウイルス感染状況が収まることを期待していますが、幹事長の篠崎(shinozaki.mitsuhiro.t8@sojitz-lifeone.com) もしくは西畑(k-nishih@nishogakusha-u.ac.jp)宛に各会員のメールアドレスをご連絡いただけないでしょうか。どうかよろしく願いいたします。世界を変えた革新的技術も使わなければ文字通りの宝の持ち腐れです。

名古屋支部だより

名古屋支部長 中嶋 利幸 (19期)



名古屋地区では東海地方に在住の卒業生を対象として、経済学部同窓会と合同で『名古屋待兼会』を運営していて、その歴史は60年ほどに前まで遡ります。現在の会の主な活動は2,4,6,9月の例会と11月には母校から来賓をお迎えして年次総会を行っています。

例会は名古屋市内のホテルで行っていて約2時間半の会です。毎回、20~30人の参加者で運営しており、会のはじめに会員が持ち回りで30分ほどのショートスピーチを行い、スピーチの後は約2時間、食事とお酒を

楽しみながら、出席会員の近況報告や懇談などで会員同士の交流を深めるという内容です。

しかしながら、コロナ感染防止対応のため、昨年は2月例会(講師:S36法 平野修義さん 演題「80歳を迎え、担当した海外関係を振り返る」)のみを開催し、それ以降の例会、総会は残念ながら全て中止といたしました。

約60年間の歴史の中で会合開催を1年以上も休止することは初めての出来事です。例会、総会への参加者の多くは学生時代から続く交流や、世代を超えた会員同士の語らいを楽しみにしています。それだけに年5回の会合の意義を再認識するとともに、諸先輩が築かれた交流の場を継続させていくことが我々の使命と考えています。明けない夜はないはずですから、コロナ禍を乗り越えて会員の皆さんが顔を揃える日が早く来ることを願うばかりです。

近年は東海地区の企業の躍進ぶりは目を見張るものがあり、それに伴い、大阪大学卒業後、東海地区に就職する方や、関西や首都圏から転勤で来られる方が増えており、名古屋周辺に在住される阪大卒業生の方が以前に比べて大きく増加しているようです。しかしその増加率ほどには、名古屋待兼会の会員数が伸びていないという状況下、新しく来られた方に入会されるようお誘いをしていきたいと思っていますので、すでに東海地区にお住みの方で入会を希望される方、近い将来、これから東海地区に転入を予定されている方は是非、以下の連絡先にコンタクト頂きますようお願いいたします。

● 名古屋支部 連絡先 〒466-0812 名古屋市昭和区八事富士見1304 中嶋 利幸 TEL 080-5114-4331

若手交流会報告

嶋津 裕介 (45期)

コロナ禍でも交流の場を設けようと、2月18日、若手交流会をZoomで開催しました。先輩会員を含めて11人の参加がありました。

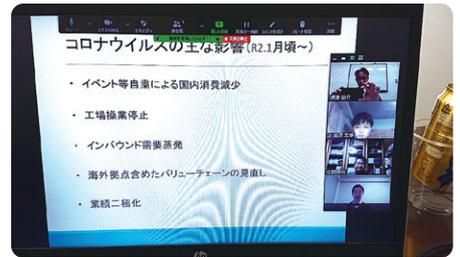
今回は「コロナ禍における地方銀行の役割」と題して、青雲会幹事(60期)の橋本正博氏にご講演をいただきました。橋本氏は2012年に法学部を卒業と同時に、池田泉州銀行に入行、現在、本店営業部で勤務されています。

今、窮状にある取引先への資金繰り支援、条件変更への柔軟な対応や、アフターコロナに向けて、ピンチをチャンスに変えようとする取引先への支援、人材紹介業務などのお話がありました。

また質疑応答では、橋本氏が大阪のまちのために同行に就職された想いなども語っていただき、学生に直に接しておられる大学教員の参加者の方々にも、卒業生と学生との懸け橋となるべき青雲会にとっても、とても有意義でありました。

第2部のZoom飲み会、上手くいくか設営側としては不安だったものの、皆様のご協力を得て、和気あいあいと楽しく交流を深めることが出来ました。

もっと告知をしておけばよかったという反省もありますが、新しい交流の形を試し、意義ある会になったと思います。



青雲会囲碁同好会のご案内

新型コロナの影響で活動を制限される状況が続いていますが、集まる機会も確保できるよう、対策をとりながら囲碁を楽しんでいます。高段の方も級位の方もいらっしゃるの、交流や棋力の向上を図れます。

イベントでは他の同好会などとの交流対局も楽しめます。ぜひ幹事までご連絡ください。

定例会

日時:令和3年5月15日(土) 13:00~17:00
 場所:梅田囲碁センター
 大阪市北区太融寺町6-8 阪急産業梅田ビル5階
 (日本棋院の囲碁サロンから場所を変更いたします。ご注意ください)
 席料:1,200円(回数券を利用いたします)

連絡先

青雲会囲碁同好会幹事 銭尾 正和(ぜにおまさかず)まで TEL:080-7035-9285 E-mail:tennohikarihasubetehoshi@hotmail.co.jp



・イベントにも奮ってご参加ください。
 1月:新年囲碁会(全大阪大学・アルプス江坂囲碁センター)
 8月:トーナメント大会(マイドームおおさか)
 11月:現役大学生との交流戦(アルプス江坂囲碁センター)を開催しています(別途、参加費用をいただきます)。

2020年度 青雲懸賞論文受賞者決定



2020年度の青雲懸賞論文は、多数の応募の中から以下の6本が優秀論文として選ばれました。

受賞者には表彰状と賞金が授与されました。また、2021年7月17日(土)開催の青雲会総会にご招待します。

青雲懸賞論文については、今年度は新型コロナウイルスの影響で苦境にある在学生の皆さんの支援を強化する観点から、表彰件数、賞金総額を倍増しました。その結果、応募件数は過去最多の38件、のべ70名となりました。

〈本年度応募件数 A部門21件、B部門17件、合計38件〉

A:法学部門

1席

法2年 YU ZHEHAO (ゆう てつひろ)
 「プラットフォーム型労働に対する労働保障のあり方」

2席

法4年 服部 宜立 (はっとり よしたつ)
 「特定の場所に対する搜索令状の効力について」

佳作

公4年 木本 雄大 (きもと ゆうた)
 「属地的管轄権は委譲できるか?—非締約国国民に対する国際刑事裁判所の管轄権についての考察—」

B:政治学・経済学部門

1席

公4年 千馬 あさひ (せんま あさひ)
 「候補者公募制度は女性候補者の増加を促すのか」

2席

公4年 小森 絵里花 (こもり えりか)
 「国連事務総長が安全保障理事会に与える影響—リベリアにおける国連平和維持活動を事例に—」

佳作

公4年 山口 理香 (やまぐちりか)
 公2年 真島 怜子 (ましまさとこ)
 「富士山噴火時における首都圏避難シミュレーション」

青雲会運営賛助金 ご芳名録

このたびは運営賛助金のご寄付を賜り誠にありがとうございます。

165名の会員の皆様と1同期会様から、合計1,675,000円の運営賛助金のご寄付を頂戴致しましたのでご報告申し上げます。

運営賛助金にご理解いただきご寄付を頂いた方々に感謝の意を込め、ここにご芳名を掲載させていただきます。(掲載を希望されない方につきましては掲載していません。)

おかげをもちまして、単年収支のバランスが5年ぶりに黒字となりました。財務基盤の安定だけでなく、青雲懸賞論文の表彰数・賞金総額を倍増でき、コロナ禍の学生の研鑽支援に繋がりました。

心より感謝申し上げますと共に、引続き青雲会活動への温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

青雲会会長 西尾 公一

卒 期	氏 名	卒 期	氏 名	卒 期	氏 名	卒 期	氏 名
旧制I期～新制10期		新制15期	辻 忠 樹	新制25期	長 井 浩 一	新制39期	山 崎 弥 生
旧制III期	北 野 栄 三	新制15期	中 川 清 孝	新制25期	西 尾 公 一	新制40期	尾 中 正 史
新制1期	米 野 元 夫	新制15期	林 宏 中	新制25期	野 澤 敏 夫	新制40期	高 尾 憲 司
新制2期	上 西 利 三	新制15期	原 田 雅 男	新制25期	細 井 正 弘	新制41期～新制50期	
新制4期	佐 坂 宏 夫	新制16期	松 井 英 樹	新制26期	木 崎 正 建	新制42期	林 謙 太 郎
新制4期	塚 口 純 行	新制17期	熊 代 均 晴	新制26期	佐 藤 隆 博	新制43期	椋 本 和 孝
新制4期	中 村 英 一 子	新制17期	田 部 雅 晴	新制26期	角 隆 博	新制44期	山 本 滋 美
新制4期	松 田 節 子	新制17期	福 田 勝 司	新制26期	初 谷 勇 夫	新制44期	村 上 岳 明
新制5期	魚 谷 博	新制17期	松 本 收 司	新制26期	向 井 英 夫	新制45期	鋤 谷 洋 二
新制5期	久 保 勝 平 彦	新制18期	黒 田 嘉 次 郎	新制27期	幸 田 武 史	新制45期	森 本 香 代 介
新制5期	松 浦 良 彦	新制18期	竹 森 正 孝	新制27期	篠 崎 光 宏	新制45期	嶋 津 裕 介
新制6期	佐 藤 互 夫	新制18期	松 岡 嘉 幸 一	新制27期	深 川 優 一 郎	新制46期	加々山 敬 久
新制7期	青 木 克 夫	新制18期	森 内 賢 一 美	新制28期	松 村 聡 緑	新制46期	西 口 崇 英
新制7期	井 野 忠 信	新制18期	守 屋 雅 美 児	新制28期	道 前 賢 次	新制46期	木 下 威 洋
新制7期	奥 田 勝 康 彦	新制19期	安 藤 徹 順	新制28期	三 成 賢 次	新制46期	松 尾 吉 洋
新制7期	左右津 孝 彦	新制19期	出 水 順 明	新制29期	池 尻 和 生	新制47期	坂 川 雄 一
新制7期	田 中 襄 二 子	新制19期	金 田 廣 明 三	新制29期	垣 内 正 也	新制48期	小 野 誓 吉
新制7期	都 築 恭 道 彦	新制20期	千 藤 洋 三 健 一	新制29期	内 藤 欣 也	新制48期	高 橋 慶 希 子
新制7期	服 部 道 勲	新制21期～新制30期		新制30期	沖 田 拓 司 享	新制49期	本 宮 亜 希 子
新制7期	鳩 澤 陽 次	新制21期	岩 本 明 雄 裕	新制30期	眞 田 順 彦	新制50期	清 水 三 沙
新制7期	藤 川 博 史 弘	新制21期	小 野 雅 満 徹	新制30期	高 部 裕 彦	新制51期～新制60期	
新制8期	井戸田 隆 弘	新制21期	北 岡 滿 徹	新制30期	西 久 保 克 彦	新制51期	西 邦 広 輔
新制8期	金 平 長 生 幸	新制21期	笹 山 雅 敬	新制30期	雛 元 克 彦	新制54期	向 井 大 琢 磨
新制8期	佐 川 雄 昭	新制21期	西 村 雅 論	新制30期	三 木 章 平	新制57期	平 松 琢 磨
新制8期	辻 本 昭 一郎	新制22期	深 崎 論 一郎	新制30期	小 寺 史 郎	新制59期	麻 生 川 典 晃
新制8期	長谷川 一 郎	新制22期	置 田 文 夫	新制31期～新制40期		新制61期～	
新制8期	若 林 崇 男	新制23期	松 井 繁 幸 保	新制31期	川 村 雅 志	新制61期	坂 本 大 地
新制9期	秋 山 晴 男	新制23期	藤 野 美 保	新制31期	永 田 朗 一	新制63期	赤 木 直 哉
新制9期	安 原 賢 治	新制24期	梅 原 保 行	新制31期	友 田 公 一	新制63期	藤 本 和 弘
新制9期	山 蔭 克 己	新制24期	片 岡 和 市	新制32期	田 中 聡 昭	新制67期	若 林 直 子
新制10期	川 井 勝 雄	新制24期	木 岡 圭 浩	新制32期	西 田 博 昭	大学院修了(入会)	
新制10期	小 泉 靖 幸	新制24期	鈴 木 浩 一	新制32期	下 村 眞 美	司法14期入会	中 島 政 子
新制10期	小 浜 正 幸	新制24期	竹 田 芳 弘	新制33期	榎 本 陽 一	司法14期入会	横 道 慶 典
新制10期	清 水 寅 三	新制24期	中 西 進 泰	新制34期	菊 岡 良 一	同期会	
新制11期～新制20期		新制24期	森 宏 司 治	新制34期	板 倉 勝 美	昭和47年入学同期会	
新制11期	貫 井 昌 博	新制24期	森 信 静 治	新制35期	櫻 井 美 幸	(敬称略)	
新制12期	相 原 俊 郎	新制24期	西 尾 久 美	新制35期	島 本 さ ゆ り	2021年3月31日現在	
新制12期	白 賀 洋 平	新制24期	安 田 光 男	新制35期	吉 田 晴 彦		
新制12期	古 瀬 洋 一 郎	新制24期	明 里 一 平	新制36期	青 山 晶 彦		
新制12期	三 瀬 裕 二 定	新制25期	木 村 清 志	新制36期	新 谷 俊 彦		
新制14期	弘 谷 基 生	新制25期	絹 谷 雅 均	新制36期	佐 治 正 規		
新制15期	今 城 功 勝	新制25期	常 陰 幸 雄	新制37期	清 原 健 介		
新制15期	小 林 克 彦	新制25期	天 雲 幸 雄	新制39期	珍 坂 雄 一 郎		
		新制25期		新制39期	寺 澤 真 由 美		



活躍する卒業生 I

「『面白そう』の直感に従う」

毎日放送アナウンサー 西 靖 (42期)



こんにちは。私は1994年に大阪大学法学部法律学科を卒業し、大阪の毎日放送という会社でアナウンサーをやっている西靖といいます。アナウンサーというのは取材もレポートも司会もしますし、テレビにもラジオにもイベントにも関わります。ニュースも読みますしスポーツの実況中継も、クイズの出題もラジオパーソナリティもナレーションもやります。扱う情報も演芸、グルメ、事件、裁判、災害など実に多様です。私自身も、幼いころテレビで見ていたタレントさん、芸人さんと共演したり、開局60周年記念企画で、60日間で世界一周(会社のお金で!)したりと、たくさん楽しいこともやっている一方で、入社した年度の1月に阪神淡路大震災を、そして情報番組を担当していた2011年に東日本大震災を経験し、それぞれ未熟ながら被災地を取材し、その様子を伝えました。もともと報道をやりたいと思って入社したこともあり、いまは報道ニュース番組を担当させてもらっています。

様々な事象を扱いますので、知識は大切です。災害取材にしても大阪都構想の話をするにしても、現状の把握だけでなく、過去の経緯、制度や適用法律の概要など、頭に入れなければならない情報は多岐にわたります。基本は現地足に足を運ぶ、本人や関係者に話を聞く、ですが、昨年来の新型コロナウイルスのアウトブレイクでは、取材しようにも人に会うのを控えねばならないというもどかしさも味わっています。それでも取材した記者に話を聞き、文献を漁る。毎度毎度、必死に勉強です。

知識はそれぞれバラバラといったん頭に詰め込まれますが、取材を重ねているとだんだんそれが繋がりをもち、「あれ?これってつまりそういうこと?」という具合に、文脈のようなものが見えてくることがあります。まあ、結構な確率で早とちりだったりもするのですが、シナプスが繋がるような瞬間は快感です。法学部で論理的に思考する訓練を積んだおかげ、と書き進めれば、青雲会への寄稿としてはいい流れなんです。おそろしく低空飛行の成績の不出来な学生だったのでそこは慎みます。でも、一夜漬のスキルだけではなく、法的思考によるアプローチ姿勢くらいは学んだのだと思います。不思議なもので、そういう回路が形成されてくると制度や法律と

は関係のない、ウイルスの構造や免疫のしくみ、地震のメカニズムのようなものも多少は理解が早くなる気がします。それも、近い知識を援用するというレベルの話ですらなくて、極端な話が、震災取材で避難所の体育館の床で寝る経験をしたらナレーションの表現の幅が広がった、なんてことが起こるわけです。

そんな私の経験から在学中の学生の皆さんに何かお伝えできるとすれば、大学で学ぶにあたって「これって何の役に立つんですか?」なんてことは、さほど気にしなくていい、ということかもしれません。もちろん、資格試験のための勉強のような目的のはっきりした学びもありますし、それももちろん大切なことですが、すべての学びにおいて「これを学んだらどんないいことがあるのか、事前に開示してほしい」「自分にとって損か得か判断したうえで学ぶ」などという姿勢は、無限の連鎖が起こる(かもしれない)学びを自ら限定的にしてしまいます。学んだことがそのまま何かの役に立てばそれに越したことはありませんが、どうやら世の中そんなことばかりではなくて(「いやそれ授業サボってただけでしょ」と言われると穴を探して入りたくなるわけですが)、手持ちの知識の生かし方、道筋の見つけ方、思わぬ知的跳躍のようなものこそが大切であり、快感でもあると思います。

みなさんのいる場所は既定のカリキュラムをこなして「阪大卒」というライセンスを得るところではありません。貴重な4年間を有意義に、とは誰もが言うことですが、私なりの有意義は「お、コレおもしろそう」という直感に素直に従うことです。年を重ねたとき「私の人生、想定通り」なんてつまらないでしょ?



世界最南端の町、アルゼンチンのウシュアイアにて



グランドキャニオンにて

活躍する卒業生 II

「阪大に四半世紀」

大阪大学大学院法学研究科 教授 高橋 慶吉 (48期)



2000年(平成12年)に法学部を卒業したあと、大学教員になりたいという思いから、そのまま大学院に進みました。大学院時代には、主としてアメリカ外交史を勉強し、2年間、アメリカ・フィラデルフィアに留学もしました。帰国後、うれしいことに母校で教鞭を取れることになり、現在に至ります。思えば、ちょうど今年で25年、阪大に学生、そして教員として在籍していることになりました。阪大には本当に長い間、お世話になっています。

2019年にこれまでの研究をまとめた著書、『米国と戦後東アジア秩序—中国大国化構想の挫折』(有斐閣)を出版しました。1940年代から50年代にかけてのアメリカの東アジア政策に注目するもので、具体的には中国をパートナーと位置づける第二次世界大戦期の政策路線が挫折に終わり、中国にかかわって日本を重視する新たな路線が形成される過程を分析する内容になっています。今年の3月にこの本でようやく博士号を取得することができました。初めての単著ということもあり、私にとっては特別な本となっております。

2019年8月から1年間、大阪大学のサヴァティカル制度を利用して、アメリカに行ってきました。滞在先はヴァージニア州アーリントン。ペンタゴン(国防総省)やアーリントン墓地で有名なところです。前半の半年は国立公文書館で歴史資料を漁ったり、フィラデルフィアを再訪したりと、楽しく充実した時間を過ごすことができました。しかし、後半の半年はまさかのコロナ・パンデミックに襲われ、多くの時間を自宅で過ごすことを余儀なくされます。

ヴァージニア州で初の感染者が確認されたのは3月7日のことでした。その5日後、州知事が緊急事態宣言を出し、学校や非基幹ビジネスに対して次々と閉鎖命令を出していきました。それによって感染状況は5月に幾分改善しましたが、6月以降再度悪化していきます。同様の展開は他の州でも見られ、多くの感染者に死者、そして大量の失業者が出ました。治安も悪化し、人種の問題をめぐる激しい抗議運動も起きました。

そうした状況を背景に書かれた、ウォール・ストリート・ジャーナルのあるコラムが印象に残っています。そのコラムは、キング牧師が暗殺され、全米でベトナム反戦運動

が巻き起こっていた1968年がアメリカにとって「南北戦争以来、最悪の年だと考えてきた」、しかし2020年はその年よりも悪い年になってしまったと嘆く内容になっておりました。

サヴァティカル期間が「最悪の年」に当たってしまったことは不運でした。フィラデルフィア以外にも行きたいところはいろいろとありましたが、ほとんど行けませんでしたし、当初予定していた歴史資料の調査もあまりできませんでした。しかし、危機の中のアメリカを現地で見ることができたという意味では幸運だったと言えるかもしれません。今年の1月には、青雲塾で「コロナ・パンデミックとアメリカ政治」というタイトルのもと、アメリカでの経験談や目撃談をお話させていただきました。

青雲会の活動には、2014年に阪大で同窓会関係の役職に就いて以来、できる限り参加させていただいております。今年の4月には副会長の1人として活動に関わることになりました。人付き合いはあまりうまくありませんが、同窓のよしみで人の輪が広がることに喜びを感じております。

同窓会のありがたみは年を取ってからわかるということを知ることがあります。たしかにそういうところはあるかもしれませんが、若い人の参加がなければ同窓会は活性化しません。すでに中年の域に達しておりますが、同窓会ではまだまだ若手という思いで、青雲会の発展に尽力していきたいと考えております。



公園の張り紙。「ともに努力すればCovid-19の拡散を防ぐことができる」とある。



帰国時に利用したロサンゼルス国際空港。コロナ規制のため閑散としている。

2020年度青雲会行事等報告

月	日	曜	行事等
2020年			
4	1	水	大学院高等司法研究科オリエンテーション(中止) 法学部1年生オリエンテーション(中止)
	3	金	大学院法学研究科オリエンテーション(中止)
	27	月	2020年度青雲会会報発行
	28	火	第1回幹事会(メール審議)
6	5	金	青雲キャリア支援基金第1回運営委員会(メール審議)
	10	水	第2回幹事会(メール審議)
7	18	土	青雲会総会(11月28日に延期)
9	9	水	第3回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
10	13	火	文系学部同窓会幹事会合同懇談会(中止)
	31	土	第68回青雲塾(於:大阪城ほか)
11	2	月	青雲懸賞論文募集開始(2021年1月14日締切)

月	日	曜	行事等
11	28	土	青雲会総会(於:太閤園、懇親会は中止)
12	2	水	第4回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
2021年			
1	23	土	第69回青雲塾(於:大阪大学中之島センター)
2	10	水	第5回幹事会(於:大阪大学中之島センター)
	18	木	若手交流会(WEB講演会・懇親会)
	27	土	第70回青雲塾(於:平城京第一次大極殿ほか)
3	5	金	青雲懸賞論文審査結果発表
	24	水	卒業式、青雲懸賞論文表彰式 青雲キャリアチャレンジ賞表彰式 卒業修了祝賀会(中止)
	27	土	第71回青雲塾(於:大阪大学中之島センター)

2020年度決算報告と2021年度予算(案)

(概要)

収入の部			支出の部		
項目	2020年度 決算	2021年度 予算	項目	2020年度 決算	2021年度 予算
会費収入	5,190	5,300	総会費	115	1,000
懇親会収入	0	640	会報費	2,671	2,600
運営賛助金収入	1,675	1,250	ソフト保守費	495	495
その他収入	134	161	支部助成金	200	200
			ローヤリング助成金	100	100
			一般助成金	0	200
			懸賞事業費	351	380
			司法基金援助金	300	300
			塾・部活動費	113	150
			若手交流会	0	30
			人件費	685	700
			その他経費	1,021	1,196
収入計	6,999	7,351	支出計	6,051	7,351

※本案は総会でご審議いただきます。

青雲会 役員(案) 任期: 2021年4月1日~2023年3月31日

役職	氏名	期	担当(*:主担)
名誉会長	瀧口剛	31期	
会長	西尾公一	25期	
副会長	沖田拓司	30期	総会*・総務*・交流促進
副会長	三木章平	30期	財務*・青雲懸賞論文*・組織強化(正会員)*
副会長	山西雅人	30期	青雲塾*・交流促進*・キャリア支援*
副会長	川村雅志	31期	交流促進
副会長	西田博昭	32期	総会・財務・組織強化(正会員)*
副会長	稲田正毅	46期	青雲懸賞論文(審査)・財務・組織強化(正会員)
副会長	坂川雄一	47期	若手交流会・総会
副会長	高橋慶吉	48期	総会・青雲塾・若手交流会*
副会長	地神亮佑	58期	青雲懸賞論文・WEB管理*・組織強化(準会員)
副会長	橋本正博	60期	若手交流会・キャリア支援・総会・組織強化(準会員)
副会長	千北慎也	64期	若手交流会・組織強化(準会員)*・WEB管理
幹事	(各期)		
	うち特に担当を委嘱する幹事		
	西畑一哉	27期	懸賞論文審査
	松田邦夫	28期	懸賞論文審査
	末澤豪謙	32期	懸賞論文審査
	稲田正毅	46期	懸賞論文審査
	木村真也	46期	懸賞論文審査
	堀木由紀	46期	懸賞論文審査
	石黒陽子	49期	WEB管理
会計監事	西村元昭	14期	
会計監事	松本綾	40期	

事務局

事務局 局長	西尾光代	30期
--------	------	-----

○ 新任副会長8名

1 年会費納入のお願い(納入方法について)

青雲会の活動は、主として新規入会者の「入会金」と会員の皆様の「年会費」で成り立っています。かねてから皆様にご報告のとおり、ここ数年は会費の納入率が低迷し、財政状況が大変厳しくなっております。ぜひとも年会費(3,000円)の納入をお願いいたします。

【年会費】の納入方法 以下、【1】~【4】のいずれかの方法で納入ください。

- 【1】同封の「払込取扱票」(年会費専用)による納入 ※郵便局またはコンビニエンスストアで利用可能(振込手数料は無料)
- 【2】「クレジットカード」での納入 ※会員専用サイトの「クレジットカードでの各種入金」ページより
- 【3】「銀行自動引き落とし」での納入 ※事前に事務局への手続きの申し出が必要です
- 【4】「銀行振込」での納入 ※振込手数料は会員様負担となります

(振込先)三井住友信託銀行 大阪本店営業部(店番号 020)
普通 2124787 大阪大学 法学部同窓会

【お知らせ】昨年度より、年会費はコンビニエンスストアでのお支払いが可能になりました。▶

同封の払込取扱票(年会費専用)にて、コンビニエンスストアもしくは郵便局でお支払いください。

(注)コンビニエンスストアでのお取り扱い、2021年7月20日までとなっております。この期限を過ぎますとコンビニエンスストアではご使用いただけませんのでご注意ください。なお郵便局でのお支払いには取り扱い期限はございませんので、2021年7月21日以降は郵便局にてお支払いください。

年会費専用払込用紙(郵便局・コンビニエンスストア併用タイプ)

